

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 12 月 31 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3491700096		
法人名	株式会社 ディア・レスト福山		
事業所名	グループホーム松花園		
所在地	〒729-3431広島県府中市上下町上下851番地1		
自己評価作成日	平成25年10月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成25年11月18日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

本年度から事業主体が変わり、新しい企業理念である「人にやさしい介護を目指して」の実現に取り組めます。松花園は認知症高齢者である入居者様に介護を提供するだけでなく「生活の場」である事に主眼を置き「その人らしい生活」を送っていただけるよう、職員一同がご家族様、提供医療機関との連携を密に取り、さらに地域の皆様との交流を深めていく事で、快適な暮らしを提供いたします。また入居者様の状態の変化に応じ看取り介護にも対応する事で、本人様のみならず、ご家族様から見ても安心安全である終の棲家としてご利用いただける施設の実現に努めてまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム松花園(以下、ホーム)は、府中市上下町のJR上下駅に近く、利便性の良い街並みの中にあります。建物は、数寄屋風の平屋づくりでバリアフリーとなっており安全に配慮されています。広い敷地には、自家菜園も備えられています。ホームでは、理念に「その人らしい生活の実現」を掲げ、その実現に向けて、医療と福祉の連携・融合による支援を実践されています。また、日々の職員ミーティングで「実践に迷いを生じたら理念にかえれ」を合言葉に、入居者に寄り添う支援に努められています。

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容	
I 理念に基づく運営(1ユニット)						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業独自の理念を作り皆で共有し、実践している	ホームを「生活の場」として位置づけ、理念の中に「その人らしい生活の実現」を掲げられています。その実現に向けて、医療と福祉の連携・融合による入居者支援を実践され、日々のミーティングで「実践に迷いを生じたら理念にかえれ」を合言葉に入居者に寄り添う支援に努められています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 入居者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域で開催される行事には出来る限り参加し、園の行事には地域のボランティアの方に参加していただき、交流をしている。	街並みの中に立地しているというホームの特性を活かして、地域の「白壁祭り」や町の各種文化行事に入居者も参加するなど、自然な形で地域交流をされています。また、施設見学や地域ボランティアの受け入れを積極的に行い、ボランティアによるお茶会や紙芝居・神楽の企画等、地域の人の出入りが多くあります。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域、家族の相談にその都度対応し、依頼があれば出向きたい王をしています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、入居者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進委員会を開催、そこで出された意見をサービス向上に活かしています。	2か月に1回、運営推進会議を開催されています。会議には、家族、地域包括支援センター、消防団、警察、民生委員等の参加があります。防災から行事企画、入居者支援のあり方などを協議し、入居者へのサービス向上とともに、地域の人にホームを見守ってもらう関係づくりに努められています。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	行政との連携は出来る限りして協力関係を築くように、行政もして下さいますが、わからない事は、どんな事も聞きます。	日常的に行政担当課と介護保険制度等に関する情報の共有を図られています。また、地域包括支援センターと密接に連携しながら、入居者主体のケアワークを実践されています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中、出来るだけ拘束をしないケアを行っている。夜間玄関のみ施錠している。状態により対応をしている。	身体拘束防止に関するマニュアルを整備し、拘束をしないケアについて、職員研修や日々のミーティング等で全職員に周知徹底されています。また、言葉かけ等において、入居者を抑制するようなことがあった場合は、気づいた職員が注意し、職員間で振り返りの場を設けるなど職場環境づくりが行われています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、入居者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待についての研修会に参加、1人1人が自覚して介助、スタッフ同士注意しながら防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	家族との話し合いをセッティングするなどし、取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、入居者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に十分な説明を行い、施設内も見学していただき理解を得ている。		
10	6	○運営に関する入居者、家族等意見の反映 入居者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の要望は出来る限り、実践している。家族との話もできている。	地元出身の入居者が多く、家族が頻繁に来所されます。職員は意識して家族や入居者とコミュニケーションを図り、思いや意見を聞き取るように努められています。家族アンケートも実施し、意見が直接言えない家族にも配慮されています。また、把握した意見等を基に介護目標の設定、ケアの改善を図られています。	
		○運営に関する職員意見の反映		日1回の全体ミーティングや毎日の30分	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体ミーティングを月に1度しており、意見を話し合える機会があり、その都度解決できるように、案をまとめている。	全員の全体ミーティングや、各部署のミーティング等で、職員の意見や提案をその都度協議・記録されています。その結果は、施設設備の改修やケアへの工夫など入居者支援に反映され、働きやすい環境づくりにも繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者と職員は意見などあるとき、直ぐに言い合える環境にて、コミュニケーションを図りながら働けるように勤めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	様々な研修への参加を行っている。実践者研修へも参加しており、持ち帰った内容を活かせるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者は、月に一度のケア会議に参加、持ち帰った内容を活かせるようにしている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初期の段階で本人の訴えがあるときになるべく、答えられるように環境作りを行い安心が出来るように、寄り添って、努力しています。		
		○初期に築く家族等との信頼関係			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の要望も出来る限り答えている。どんなことにも耳を傾けて行きたい。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	医療面では、介護士の出来る範囲が決まっているが、その人にあった、介護支援を提供していきたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家庭にいるような暮らしに、添える介護を行っていく。家の中にいるだけでなく、外の空気、季節も感じていただく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は家族との連携を大切にしており、家族に安心をして頂ける様に、行事〈家族会〉の参加をお願いをする。面会時間は充分にとっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人の面会なども受け入れている。本人の行きつけの美容院にも行っている。希望があれば同行する。	入居者の行きつけの美容院やスーパー、図書館等、入居者の馴染み場所や人との関係を大切にされています。入居者の友人が訪問した際には一緒に食事を楽しまれ、入居者が行ってみたいところに出かけるなど、個別支援を積極的に行われています。	
		○入居者同士の関係の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		入居者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに入居者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士1人1人の性格など、把握し、孤立しないように援助している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	介護の相談等対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	難しい場合でも、日々の経過で気づいたことを把握し、職員全員が意見を出しながら検討している。	日常のケアの中で入居者の思いを聞き入れ、入居者を受容し、そのニーズへの気づきを全職員にミーティングや職員研修で徹底されています。また、意思表示が難しい入居者には、本人の表情やサインを見逃さないよう徹底されています。把握した思いは、職員間で共有、検討され、支援に結びつけられています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴、家族の事などを、特に把握するように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々体調により一日の過ごし方が変わってくるので、体調の変化に気づき、無理の内容に過ぎしていただく。		
		○チームでつくる介護計画とモニタリング		入居者の家族の思いを介護目標に反映さ	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	より良く過ごしていただく為に、家族、本人とどんな細かい事でも話し合い、その人にあった計画を作成している。	入居者や家族の思いを介護目標に反映されています。また、目標達成に向けた支援を実施するために、計画作成担当者と医師等が連携してモニタリングを実施し、職員間で情報共有され、チームケアでの支援にあたられています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の記録にその人の記録を記入している。その記録を職員は毎日チェックし、情報を得ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	そのときの状況にて、柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	その人にあったレベルで、出来る事を行ってもらう。楽しんで過していただけるように月に一度は行事を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医による、定期的に往診がある。本人家族の希望、緊急時には受診も可能	2週間に1回、協力医療機関による定期往診があり、入居者の健康管理にあたられています。また、入居者は、これまでのかかりつけ医を受診され、家族の対応が困難な時は職員が付き添われています。	
		○看護職員との協働			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の入居者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の状態で少しでも変わった事に気づいたら、看護師に相談、医師とも連携を図り適切な支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 入居者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との連携による、情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	高齢の為に、今後どのようなことがあるかわからないので、早めに家族と話し合いの上で対応をしている。	法人の方針として、ホームでの終末期の対応も行くとされています。対応について職員研修や家族も含めた勉強会を行い、早い段階で入居者、家族としっかり話し合われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 入居者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故など、ミーティング時に、どのような対応で行うのか、しっかり聞き、実践力を身につけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず入居者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回消防署の指導のもとに、防火避難訓練を行っている。職員全員が出来るように、身につけている。	年2回の消防(避難)訓練の他、災害時に備えて法人として食糧・資材等を備蓄されています。また、運営推進会議に地域の消防団関係者が参加され、日頃から地域住民との連携に努められています。	地域密着型サービス事業所として、地域との連携がより必要となります。今後の取り組みとして、地域の参加の呼びかけなどを行い、協力を得ながら訓練が実施できるよう期待します。

Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	1人1人のプライバシーの確保に努めている。声えかけなどにも気を付け人格を尊重する。	「入居者一人ひとりの人権尊重」という意識とその実践を全職員に徹底されています。押し付けにならないような言葉がけから、排泄時、入浴時等のプライバシーに配慮した対応に至るまで、職員同士が意識し合い、入居者主体の支援を行われています。	
37		○入居者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	家庭で過しておられたように、職員は心がけて、本人の思いを聞き、意志を大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員のペースでなく、本人のペースに合わせて援助する。出来る限り要望にこたえるようにしていく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみが気になる方も折られるが、自分好みに毛染めなど定期的にされている。おしゃれも楽しめるように支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事には気を抜かず、「美味しい」と言ってもらえるように、日々努力をしている。手づくりで畑の収穫なども手伝ってもらっている。かたづけや無理のないように行ってもらっている。	食事は、職員手づくりで地産地消を心がけて提供されています。ホーム敷地内の畑で入居者と職員と一緒に収穫した野菜が食卓に並ぶのも楽しみの一つになっています。職員は、入居者と同じテーブルを囲み、会話を楽しみ、見守りながら食事をされています。献立には、入居者の嗜好を反映されています。	
		○栄養摂取や水分確保の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	個別に水分量、食事量、毎日記録をとっている。脱水症に注意足りない時には、水分摂取を進めるなどの配慮を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアは毎食後行っている。自分で出来る人は自分で行い出来ない人は、その人にあったケアをしている。夜間は入れ歯を、ポリドントにつけて消毒をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄面では、1人1人異なる為に、個別にあった支援をしている。トイレ誘導時、声かけに注意、プライドを傷つけないような声かけをする。	個々の入居者の排泄パターンを詳細に記録し、職員間で情報共有され、おむつの使用を減らすことを目標に支援をされています。また、トイレに行くことは体を動かすリハビリという視点から、入居者のペースに合わせた誘導を心がけ、押し付けにならない介護を実践されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄チェックも毎日行っている。排泄のない日には看護師に相談をしている。その都度その人にあった対応をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴時、事故がないように気をつけて介助に当たっています。無理をせず1人で難しい時には、二人対応をしています。個々にあった入浴を提供しています。	入浴は個浴で、日中を基本に毎日入れるよう支援されています。浴室にはエアコン等が設置され、温度差がないよう配慮されています。また、入居者の安全を考慮した造りになっています。今後は、夜間入浴の対応について検討されています。	
		○安眠や休息の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	生活習慣に合った支援を行っている。昼間は仮眠を取っている。眠たそうにされている時には居室にて休んでいただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報は誰にでもわかるように説明書が管理されている。服薬による症状に変化に気づいたときには、看護師から医師に報告をする。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	つきに1～2回行事を行っている。気分転換になるように、季節にあった行事を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	行きたいところへ定期的に行かれている方がいます。家族の協力で趣味のカラオケに行かれる人もいます。園庭内に散歩は天気の良い日には必ず行きます。	法人の方針として、積極的な外出ができるよう支援されています。日常的にはホーム周辺の散歩や町の文化行事等への参加、墓参りや自宅へ行く等、個別の外出支援が行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金が理解できる方は所持していただき、買い物などに付き添います。		
		○電話や手紙の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家庭、外部と連絡が取れるように電話がある人は自由にしておられます。ない人は事務所の電話を利用されます。手紙を自由に書いて松花園用ポストを作っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、入居者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	空間を大切に生活感では、家庭で過しておられたような空間であるように、季節感を取りながら、毎日刺激的になる暮らしを心がけている。	平屋建ての造りで、建物中央に玄関があり、自由に出入りができます。各ユニットの居間には薪ストーブやソファが設置され、入居者がいつでも寛げるように配慮されています。また、職員による掃除が行き届き、ホーム全体が清潔に保たれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った入居者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングで思い思いに過しておられる。気の合った人同士を隣の席などにして、食事中にも会話が楽しめるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室では本人が過しやすいように、ベッドの向きなども希望に添っている。ドアには絵かけて、その人にあったイラストを手作りしています（部屋がわかりやすい為）	「居室は入居者の自宅」という考え方を基本にされています。居室には、エアコン等は備えつけられています。入居者は、家族と相談しながらタンス等、使い慣れた物を持ち込み、居心地良く過ごせるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	出来るだけ、部屋やトイレがわかりやすいように、工夫をしている。自立が出来るようになるべく見守りをするようにしています。		

V アウトカム項目(1ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己 評価	外部 評価	項目花棟	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
I 理念に基づく運営(2ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	会社の譲渡もあり、理念もまだよくわかっておりません。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域で開催されている「ひな祭り」に参加をしたり、上下駅のよこにある「四季」へそばを食べに行ったり、園の行事夏祭りにはボランティアの方に参加していただき交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方々や家族からの相談にはその都度対応しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進委員会を開催していましたが、この半年間はしておりません、早急に開催いたします。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	行政との連携を図り緊急性の高い入居者様の受け入れなど地域にニーズに応じた支援に取り組んでいます。		
		○身体拘束をしないケアの実践			

自己評価	外部評価	項目花棟	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	夜間を除き、日中は玄関の施錠はせず、行動制限もなるべくしないように心がけています。緊急時やむ終えない時は、ご家族様と話し合いをしながら対応しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内で虐待があり、ミーティングを行い、職員1人1人が真摯に受け止め、今後虐待が起きないように努めていきます。職員同士の声かけをしっかりとしていきたいと思っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	これらの制度について入居者、家族への周知に努めていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、利用者や家族の不安や疑問があれば、十分な説明を行っています。入所後も心配事や質問があればその都度お答えをしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関にご意見箱を設置し、苦情窓口も設けています。ご家族様にアンケートを実施し運営に反映させていただいております。		
		○運営に関する職員意見の反映			

自己評価	外部評価	項目花棟	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各ユニットミーティングで出た意見提案は、月一度のミーティングで話し合いをし、反映できるようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	会社の譲渡があり、まだコミュニケーション不足ではありますが、これから時間をかけて取り組んでいけたらと思います。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	各研修会に積極的に参加し、職員皆で共有し、知識、技術の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	つきに1回行われる、医療、介護関係者による、会議に参加し、情報交換をし、また園内でも話し合い、サービスの向上に取り組んでいます。(事例)		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前に面談にて、本人の希望などを話し合い、出来る限り答えるようにしています。		
		○初期に築く家族等との信頼関係			

自己評価	外部評価	項目花棟	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前の面談時ご家族の不安や要望にも出来る限り答えるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	医療界ごめんで、本人と家族にあった支援を検討し、他のサービスとの連携を図っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	洗濯物を干し、たたみ、かたづけを一緒にしていただいております。野菜の水やり、収穫をし、取れた野菜をぬかずけ煮したりしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族様に行事などに参加をしていただいたり、情報を共有する事により、ともにケアチームの関係を築くようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族、知人の面会やご宿泊は、出来る限り受け入れるようにしています。これまでの馴染み場への参加も可能な限り支援しています。		
		○利用者同士の関係の支援			

自己評価	外部評価	項目花棟	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を把握し、お互いに支えあえるように支援しています。〈共通の趣味、お話など〉		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要に応じて相談に対応しています。予約、申し込みやたのサービス利用の際も支援をしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者1人1人の思いや希望を言動や行動、反応から察知するように努めています。またミーティングや、ユニットミーティングでの話し合いにて気付きや対応について検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前の面接にて、本人やご家族様より聞かせていただいたり、また利用される中でご本人やご家族様より聞かせていただき把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	申し送りや、連絡ノートを利用し職員全員で情報を共有し、把握に努めています。		
		○チームでつくる介護計画とモニタリング	利用者様、ご家族様、医療関係者と連携		

自己評価	外部評価	項目花棟	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者様、ご家族様、医療関係者と直接話し合い、現状に即した介護計画を作成しています。問題点、課題点については、その都度ユニットミーティングで話し合い担当者がまとめています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子は個別の介護記録に記入しています。その他気づき、情報は各棟の連絡ノートへ記録し職員間のs情報の共有に努めています。またその情報を元にミーティングをし、実践や介護計画の見直しに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	できるかぎり本人、ご家族のニーズに対応できるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	出来る限り、1人1人の地域資源を把握し、豊かな暮らしが出来るように取り組んでいます。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医による往診が2週間に1回ありその他の往診においても、本人ご家族の希望を大切にし、状態に合わせて医療を受けられるように支援をしています。(時と場合による)		
		○看護職員との協働	介護職員は日々のことと情報と看護職員		

自己評価	外部評価	項目花棟	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員は日々とらえた情報を看護職に伝え、相談をしています。全てでは有りませんが介護職の立場から、利用者が適切に受診(精神科)、看護が受けられていない。受けれるように、問題点を話し合う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とは、その都度情報交換や相談をしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人や家族の意向の意向を重視し、看取りを希望された場合は十分に説明をしながら取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	ここ何年もしていません。実践が出来るように頑張りたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回消防署指導のもと、防火非難訓練を行っています。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

		○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保		
--	--	------------------------	--	--

自己評価	外部評価	項目花棟	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉かけや対応に注意をするように心がけていますが、まだまだ出来ていません。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の意向を引き出すことは来れていますが自己決定までは出来ていないように思います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	時に職員の都合を優先していると思います。出来る限り希望に添えるように、こころがけます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	意思表示出来る方は自由にされています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	園の畑で一緒に収穫した野菜を使用した食事や利用者様と一緒に漬けたお漬物を食べている。下善も出来る方には下げていただいている。		
		○栄養摂取や水分確保の支援			

自己評価	外部評価	項目花棟	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量は常にチェック記録をして確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、その人の口腔状態に応じたケアをしている。出来る事は自分でして頂いています。(見守りや、声かけは常時しています)		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄状態を把握した支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の原因を理解し看護師、医師と相談をしながら、食事、水分、運動など個々に工夫をした働きかけをしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	職員の都合でしている、夜に入浴したい方が折られるも対応できていない。		
		○安眠や休息の支援			

自己評価	外部評価	項目花棟	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の意思に基づき自由に休息をいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の変更があれば、その都度確認し連絡ノートや日誌などで確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	季節を感じていただく為に、お月見かいをしたり、ホーム内で喫茶店をしたりしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	希望に添えるように、外出等に対応しています。春には駅前の「四季」でおそばを頂いたり、秋にはかかし祭りを見に行ったり、外出が出来るように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	理解出来る方はお金を自分で所持しておられます。その他の方は希望に応じて支援しています。		
		○電話や手紙の支援			

自己評価	外部評価	項目花棟	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	各室に電話回線がひけるようにしてあり、自由にやり取りをしていただいております。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間は天然素材、土壁を使用し、薪ストーブも備えつけ、温かみのある空間作りになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間においても、プライバシーに配慮しながら過ごしてもらえるようにしてある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には使い慣れたものや、好みのものを持ってきていただいています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリー構造になっており、トイレや各居室も表示しわかりやすくしています。		

V アウトカム項目(2ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム松花園

作成日 平成 26 年 1 月 27 日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点, 課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	1	理念の共有と実践	起業理念である「ひとにやさしい, 介護を目指して」を実践する。	研修・ミーティングやOJTにより, 利用者本位の介護支援を確立する。	6か月
2	3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議の参加者に対して, 積極的に情報発信・意見の聴取を行う。	地域に根付いた施設の実現のため, 会議参加者に積極的に関係構築を行う。	6か月
3	13	職員を育てる取り組み	職員の能力を適切に把握し, 更に高める事により, 質の高いサービスを提供する。	管理者を中心とし, 研究やOJTにより接遇・介護技術等の底上げを図る。	6か月
4	18	本人とともに過ごし支えあう関係	利用者の生活の場である施設において, 自宅にいるかの如く過ごせるものとする。	利用者の心に寄り添い, 介護を押しつけるのではなく, 共に生活すると心得る。	6か月
5	19	本人を共に支えあう家族との関係	利用者, 家族, 施設職員の三角関係を構築し, よりよい環境を常に模索する。	家族に対しても積極的な情報発信を行い, 意見交換を欠かさないようにする。	6か月
6	20	チームでつくる介護計画とモニタリング	チームケアの実現のため, 全ての職員が利用者のよりよい環境を考える。	利用者の些細な変化を最も把握しやすい介護職員も, 積極的に意見を発する。	6か月
7	35	災害対策	地震・火災等の災害発生時に利用者の安全を確保できる様日頃から訓練をする。	地域の消防・警察等の協力を得ながら, 緊急時の対応について再度検討する。	6か月

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。